

キャリア学習（群馬県のへき地医療）（R1.5. 14）レポート



- 群馬県の高校生の医学部進学者は、毎年100名程度です。
- 人口規模からすると150名程度進学して欲しいところです。

本県35位「医師少数県」

少数区域は吾妻 沼田、太田・館林

医師が都市部に集中する偏在問題で、厚生労働省は18日、本県を含む16県が、人口や診療需要に対して適正な医師数を確保できていない「医師少数県」となっていることを明らかにした。医師の総数は31万9000人と過去最高を更新している一方、都市部と地方の格差が鮮明となった。同省は、卒業後の一定期間地元で働く大学医学部の「地域枠」を重点配分するなどして、2036年度までに問題を解消したい考えだ。

関連記事 2面

厚労省 重点的に確保策

厚労省は今回、医師の充足状況を判断する目安として使われてきた「人口10万人当たりの医師数」に代わり、より実態に即した「医師偏在指標」を策定した。新たな指標をベースに都道府県や地域別の充足状況を数値化し、医師が十分充足されている上位16都府県を「医師多数都府県」、下位16県を少数県に位置付け、さらに都道府県内の複数の市区町村がまとめて指定される「2次医療圏」についても、全国337か所のうち、上位の3分の1の111か所を「多数区域」、下位の3分の1の111か所を「少数区域」とした。本県の指数は「100.0」

②で全国35位、2次医療圏では前橋（425.4）が全国6位で、吾妻（107.1）、沼田（131.7）で全国平均は都道府県、2次医療圏ともに

⑦、太田・館林（144.5）、1の3医療圏は少数区域とされた。全国平均は都道府県、2次医療圏ともに





- ・ 一般診療
- ・ 訪問診療/往診
- ・ 集団予防接種
- ・ 健康相談
- ・ 乳児健診
- ・ 学校医（健診や学校保健委員会）
- ・ 産業医
- ・ 地域ケア会議
- ・ 介護認定審査会
- ・ 老人クラブでの講演
- ・ 県内高校生への講演
- ・ 学生実習の指導

○認知症の方とは、思いやりをもって関わしましょう。

○医師としてできることとできないことがあります。連携を心がけましょう



○生徒が講師の医師に熱心に尋ねていました。



○上毛新聞社も取材に来ました。

